

物語のかけらを見つけに

2026年5月30日(土)―8月2日(日)

会場：三鷹市美術ギャラリー 主催：三鷹市美術ギャラリー・(公財)三鷹市スポーツと文化財団

出品リスト (展示順)

すべて個人蔵

No.	作家名	タイトル	出版社	出版年	技法・素材
27-44	酒井駒子	『はんなちゃんがめをさましたら』原画	偕成社	2012	アクリルグワッシュ、オイルペンシル / ボール紙
1-15	酒井駒子	『ぼく おかあさんのこと…』原画	文溪堂	2000	アクリルグワッシュ、オイルペンシル / 水彩紙
16-26	酒井駒子	『ピロードのうさぎ』原画	プロンズ新社	2007	アクリルグワッシュ、オイルペンシル / 水彩紙
45-59	酒井駒子	『橋の上で』原画	河出書房新社	2022	アクリルグワッシュ、オイルペンシル / ボール紙、59のみ水彩紙

酒井駒子 (さかい こまこ)

兵庫県出身。東京藝術大学美術学部油絵科を卒業したのち、仕事をしながら絵本作りに取組む。『リコちゃんのおうち』(偕成社、1988年)で絵本作家としてデビュー。作品は国内外で高く評価され、2004年『きつねのかみさま』(ポプラ社、2003年)日本絵本賞、2005年『金曜日の砂糖ちゃん』(偕成社、2003年)でブラチスラバ世界絵本原画展金牌、2006年『ぼく おかあさんのこと…』でPITCHOU賞(フランス)・銀の石筆賞(オランダ)、2014年『はんなちゃんがめをさましたら』で旗と吹流し賞(オランダ)、2023年『橋の上で』で日本絵本賞を受賞する。書籍の装画・挿絵なども手掛ける。

No.	作家名	タイトル	撮影年
78	齋藤陽道	羊水のなかのめざめ	2024
60	齋藤陽道	かつてとやがてが接続する今	2016
65	齋藤陽道	裏切れぬはずの友	2018
62	齋藤陽道	まろやかな円がやってくる	2017
77	齋藤陽道	すべての別離はさりげない	2022
73	齋藤陽道	始源のメッセージ	2021
75	齋藤陽道	私は花だろう	2022
69	齋藤陽道	少し歩いて、おまえは見上げた	2020
66	齋藤陽道	自分に等しいものはいたるところで生起している	2019
63	齋藤陽道	千もの物語を手にする	2018
74	齋藤陽道	存在のざわめき	2021
68	齋藤陽道	夜が天をおおうとき	2019
67	齋藤陽道	終わりなく萌ゆる葉のうた	2019
72	齋藤陽道	愛しき死者よ	2021
70	齋藤陽道	存在は無限を満たす	2020
61	齋藤陽道	ひとつぶの岩石、ひとつぶの我ら	2016
64	齋藤陽道	私は虫だろう	2018
79	齋藤陽道	流れは名をもたぬまま流れる	2024
76	齋藤陽道	透明な力、宿れ	2022
71	齋藤陽道	彼が座るとき、コスモスが広がった	2020

齋藤陽道 (さいとう はるみち)

東京都出身。2004年東京都立石神井ろう学校専攻科(当時)卒業後、写真家としてのキャリアをスタートさせる。2010年「写真新世紀」で優秀賞受賞、2019年写真集『感動、』(赤々舎、2019年)で第45回木村伊兵衛写真賞最終候補となる。2020年に熊本県へ移住する。写真家としてだけでなく、文筆家としても活動し、2024年著書『よっちぼっち 家族四人の四つの人生』で第65回熊日文学賞を受賞。そのほか、NHK Eテレ子供番組「おかあさんといっしょ」エンディングテーマ曲の作詞やイラストなど、幅広い活動を展開している。本展では2015年から始動した「神話」シリーズより20点を紹介する。

No.	作家名	タイトル	制作年	技法・素材
80	成瀬麻紀子	海へつづく階段	1990年代後半	水彩/紙
83	成瀬麻紀子	時間の輪郭	1990年代後半	水彩/紙
96	成瀬麻紀子	たくさんの色たちが	1990年代後半	水彩/紙
82	成瀬麻紀子	道にならんで	1990年代後半	水彩/紙
93	成瀬麻紀子	静かなところで	1990年代後半	パステル/紙
98	成瀬麻紀子	あの日の想い	1990年代後半	水彩/紙
94	成瀬麻紀子	ひかりの葉	1990年代後半	水彩/紙
103	成瀬麻紀子	ゆれる小舟	1996	水彩、パステル/紙
92	成瀬麻紀子	ブルーな気持ち	1996	水彩/紙
101	成瀬麻紀子	空へとつづく道	1990年代後半	水彩/紙
86	成瀬麻紀子	帰る場所	1990年代後半	水彩/紙
91	成瀬麻紀子	折り	1990年代後半	水彩/紙
81	成瀬麻紀子	きのうの風景	1990年代後半	水彩/紙
104	成瀬麻紀子	また会えた	1990年代後半	水彩/紙
84	成瀬麻紀子	水のともしだち	1990年代後半	水彩/紙
95	成瀬麻紀子	月の眠り	1990年代後半	水彩/紙
85	成瀬麻紀子	ひだまり	1997	水彩/紙
90	成瀬麻紀子	ふたりのブランコ	1990年代後半	水彩/紙
102	成瀬麻紀子	君の声	1990年代後半	水彩/紙
107	成瀬麻紀子	おさんぽ	1990年代後半	クレパス/紙
105	成瀬麻紀子	想いをはせて	1990年代後半	水彩/紙
100	成瀬麻紀子	青の風景	1990年代後半	水彩/紙
87	成瀬麻紀子	ひかる風	1997	水彩/紙
97	成瀬麻紀子	君と見つけた	1990年代後半	水彩/紙
89	成瀬麻紀子	コミュニケーション	1990年代後半	水彩/紙
108	成瀬麻紀子	風景	1990年代後半	水彩/紙
106	成瀬麻紀子	夜の空気	1990年代後半	水彩、パステル/紙
99	成瀬麻紀子	木のあいさつ	1990年代後半	水彩/紙
109	成瀬麻紀子	たのしかった日	2009	水彩/紙
88	成瀬麻紀子	あおいろの時間	1990年代後半	クレパス/紙
116	成瀬麻紀子	こころの風	2025	水彩/紙
117	成瀬麻紀子	一緒に行こう～風の音をききながら～	2025	クレパス/紙
114	成瀬麻紀子	春の調べ	2025	水彩/紙
115	成瀬麻紀子	風	2025	水彩/紙
110	成瀬麻紀子	思いは空へ	2025	パステル/紙
112	成瀬麻紀子	しずかな夜	2025	クレパス/紙
111	成瀬麻紀子	しずかなとき	2025	クレパス、パステル/紙
113	成瀬麻紀子	大丈夫だ	2025	水彩/紙

成瀬麻紀子(なるせ まきこ)

大阪府出身。1989年、現在の活動拠点である長野県安曇野へ移る。1993年、長野県大町北高等学校卒業後に就職するが、心のバランスを崩し、しばらく家の外に出られない日々を過ごす。本展ではこの時期に制作された作品に加え、今回のために描かれた新作を併せて紹介する。現在も安曇野で制作活動を行う。